

令和4年度社会福祉法人ないえ福祉会 事業報告

令和4年度についても新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、1年を通して感染の波が変わるたびに対策に追われる年となりました。10月末から始まった第8波では、グループホームでクラスターが発生、年度末の3月には、本体施設でもクラスターが発生し対応に追われました。そのような中でも利用者、職員ともに重篤な症状の方ではなく、対応する職員も研修会等で得た知識を生かし皆で協力し、乗り越えられたことは良かったと思います。この新型コロナウイルスについては5月8日から、感染症法上の位置付けも変更され、これまでとは違う取扱いとなりますが、引き続き感染対策は行いつつも過度に恐れず、利用者の生活をコロナ禍前の状態に少しずつ戻していきたいと思えます。

4年度計画していた設備面の事業では、本体施設の高圧受電設備の更新と発電機の移設、利用者更衣室の設置、グループホームのメンテナンス等、計画的に進めることができました。故障等で入れ替えが必要となった公用車についても、随時更新し各事業に影響が出ないように対応しました。

施設入所事業では、利用者2名が長期入院中のため37名の利用となりました。高齢化や重い障がいのある方への支援を見据えて個室化の検討をしてきましたが、新型コロナウイルス感染症の流行による対策等に追われ具体的な見直しには至りませんでした。3月中旬からは、入所者23名、職員7名、計30名が感染するクラスターが発生しました。今後も感染対策を継続しながら利用者が安心して生活できるよう支援をしていきます。

生活介護事業では、定員40名に対して46名の利用者でスタートしましたが、4月に1名が病気で亡くなり、6月には1名が病気の進行により退所されました。10月からは、新規利用者1名を受け入れ、45名での活動となりました。コロナに翻弄され通所の休止や分散通所などでなかなか思うように活動ができませんでしたが、施設内外での散歩の他、音楽や映像に合わせて楽しみながら毎日を動かし、健康維持に努めました。新聞作業やちぎり絵などの創作活動は継続しています。余暇面では、季節毎のイベントに加え、新しい取り組みとして赤平のキャンプ場でデイキャンプを企画しました。職員で知恵を出し合いながら実施したイベントで多くの利用者の笑顔が見られました。今後も感染対策を継続しながら活動等を行います。

短期入所事業では、今年度も新型コロナウイルス感染症の影響により利用率は低い状況でしたが、術後のケアが必要な単身生活者の利用や単身での生活が困難になった方の一時的な利用がありました。今後も感染状況を見ながら利用希望に応じ、受け入れられる体制を整えていきたいと思えます。

就労継続支援B型では、令和4年度も新型コロナウイルス感染症予防対策を講じながらの運営となりました。利用者や職員の感染で通所停止となった期間は、電話での健康確認の他、職員がグループホームを訪問し一緒に委託の作業を行うなど工賃につながるよう工夫

しました。今年度は病気で1名の利用者が亡くなりました。また2名が転倒で骨折する事故がありました。利用者の高齢化に伴い、より安全な作業提供をしていくために、職員同士の連携強化や作業形態の見直しが必要だと感じました。行事は、外出こそできませんでしたが二回に分けての焼肉や、キッチンカーを招いてのお祭りなど、時代に合わせた楽しみ方ができたと思います。

椎茸作業では、ハウス二棟のビニールを張り替えました。ハウス内が安定して保湿・保温され、コスト削減にもつながっています。また、新しい試みで培養から収穫まで同じ場所で行う方法を取り入れたところ成功し、収穫量を増やすことができました。生協等の販売も順調に売り上げを伸ばし、年度末には全員に作業時間数に応じたボーナスを支給しています。

洗濯作業では、洗濯機の基盤が故障し修理を依頼しましたが、型式が古いため交換ができず入れ替えが必要となりました。リサイクル作業は銅線の仕入れも安定しており、順調でした。

就労移行事業は令和4年度1名が就職し、利用者は2名となりました。関係機関と連携や、特別支援学校を訪問するなどして新規利用の獲得に奮闘しましたが、近隣でサービスを利用する方は少ない年でした。年度末には女性1名の実習を受け入れ、来年度の利用が決まっています。

みみずくは感染対策として何度か休業しましたが、4月から販売を開始したレトルトの「しいたけカレー」も好評で、過去最高の売り上げとなりました。また、ソフトクリームの機械も新しく入れ替えましたので、ソフトを使ったドリンクメニューも増やしています。

就労定着支援では、定期的に職場やご家庭を訪問してバックアップを継続しています。離職者はいません。

共同生活援助は、春、女性入居者が闘病生活の末に逝去され、男性入居者がサービスを変更し高齢者向け住宅へと暮らしを移し、秋にも男性入居者が就職に伴って別の事業所へ転居されました。3名の入居者を送り出しましたが、寂しさばかりではなく、晴れ晴れしく新しい生活に向かう姿を見ることもできて、人の人生に携わっていることの重みを感じた一年となりました。

新規入居者については、6月と12月に単身生活が難しくなった男性2名を受け入れています。単身生活から共同生活へと暮らしの場を変えることにはストレスがあるのではと心配しましたが、スムーズに暮らしに慣れ、笑顔で楽しく過ごされております。また、3月にも女性の入居予定がありましたが、新型コロナウイルス感染症の関係で4月に延期しています。

今年度も残念ながら新型コロナウイルス感染症の影響を受けて思うように行動ができず、さらに10月にはクラスターの発生がありました。最終的には入居者6名が感染しましたが、幸い全員軽症に終わりました。過酷な勤務、家族への影響にも、大丈夫と勤務し続けてくれた仲間感謝しています。

ハード面では、ホーム二棟の屋根のメンテナンスを行いました。また、公用車の入れ替え時期であり、昨年度末、赤い羽根共同募金の助成申請をしました。結果、通りませんで

したが、秋には車輛を入れ替えました。

令和4年度から、新たに重度障害者支援加算等を取得しております。利用者のより良い支援と安定した経営ができるよう努めています。

居宅介護事業は、今年度もコロナウイルスの影響を受けながらのサービス提供となりました。グループホームを中心に展開していたこともあり、行動制限やクラスター発生に大きなダメージがありました。

また、夏に有償運送車輛の故障と交通事故があり有償運送ができなくなり、オプション料金をいただけない期間がありました。中古車を購入し、後半には通常のサービス提供ができました。

利用者の動きとしては、居宅介護サービスを定期的にご利用していた方がグループホームに入居したり、逝去されたり、他サービスへと暮らしの場を変えるという変化が著しい一年で、利用者を失ったことに大きな不安を感じました。反面、利用の希望も多くありましたが、単発的な利用の相談が多く、事業所の規模的に難しいことも伝えながら、新規では2名の利用者と契約しました。現在単身生活を続けている利用者も、一人で暮らしていくことに不安を感じている今日です。ご本人の思いに寄り添って、できる限り支援したいとサービスを提供していますが、安全面での不安は大きく、今後どのような暮らしにしていくなかを一緒に考える機会も増えました。